(IV－36)

東伊豆町における活性化の試みと課題

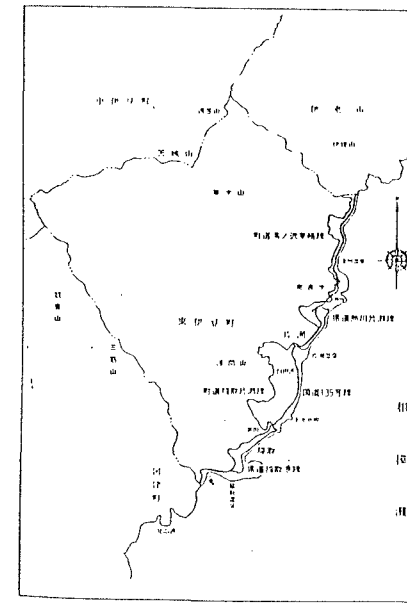
関東学院大学　学生会員　遠藤真一
関東学院大学　正会員　　昌子住江

1.研究の目的

現在の観光事業は、海外旅行の増加や国内でのテーマパーク地等への流出、さらには低料金宿泊志向など観光のニーズの多様化などで経営が悪化してきている。静岡県東伊豆町も例外ではなく、活気のある温泉街であったこの町に1994年には年間135万人の人が訪れていたが1996年には131万人で4万人程減少した。金額にすると約20億円の減収でありこれからはさらに厳しくなると予測される。そのため新たな観光資源を発掘し、活性化につなげることが期待されている。本研究では活性化事業の成功について、その要因を分析し東伊豆町を考える上での参考としたい。

2.東伊豆町の現況

東伊豆町は静岡県の東部、伊豆半島東海岸中央に位置し全般的に丘陵性をなし、北、南、西の三方を天城山系及びその枝脈に囲まれている。気候は沖合を流去する黒潮の影響により海洋性をなし、平均気温15.3度、降雨量1949.44ミリである。人口は1975年に17324人だったのが1995年には16741人と減少している。就業人口は、第3次産業が70.6％でその中でも90％程を観光が占めている。



図－1　東伊豆町の地図

3.活性化の試みと課題

東伊豆町では「豊かな自然と人間の出会いを創造するまち」を目指し色々な活性化事業を行っている。伊豆太陽農協では「みかん」に着目し石けん、入浴剤、リンスインシャンプーにしたり、伊豆天城のわさびを漬物やソースとして出荷している。特に夏みかんサワーは農林水産省食品流通局長賞に選ばれた上、年間生産量20本とヒット商品になっている。また「伊豆の国『夢』フェスティバル事業」が1996年度中小商業活性化事業として行われた。これは「江戸城築城石」の歴史的資源、「どんつく祭り」の文化的資源を再発掘すること、また地場の金目鯛などの海産物や、野菜などを「港の朝市」で販売することなどの特色のあるイベントを継続開催する事業である。現在では、本町の商店街に、シーフードレストランとギャラリールーム、ライブハウスの併設をし、その他水産加工場や本町のグッズの販売と漁業資料館、リサイクルショップや輸入品雑貨店、駄菓子屋など遊び心のある店舗を加え、観光客や地域住民の周遊の拠点となるような観光施設の建設を目指している（1998年完成予定）。

しかし伊豆の海岸線に沿った町はどこも同じような観光資源に偏しており、東伊豆町独自の観光資源を発掘したい。即ち海や山の魅力を十分味わえる施設であり、かつ体験型の施設とすることが観光客を繰り返し誘致できるものであると考える。

4.活性化事業の研究

ここでは活性化事業の成功例として静岡県周智郡森町と愛知県北設楽郡東栄町を挙げた。これらは、地理的条件、人口、産業など東伊豆町とは必ずしも類似点を持たないが、新しい資源により観光客が増加しこれらを基盤として町の活性化へとつながった事例としてここに取り上げた。

（1）アクティ森　（静岡県周智郡森町）

森町は歴史のある町「遠州の小京都」また「森の石松」という看板により年間100万人程の観光客が訪れていた。森町には多くの寺院、神社があり多くの人々が参拝に訪れる。しかし初詣の時期に来町する観光客がほとんどであ

キーワード：町おこし、観光
連絡先：横浜市金沢区六浦町4834・ＴＥＬ045－781－2001　ＦＡＸ045－786－7098

る。「古代の森」と言われている「小国神社」には1400年の歴史があり代表的な神社である。しかし森町は「遠州の小京都」としてしか地域を位置づけてこなかった。そこで、森町では、体験の里として四季の自然を感じながら、陶芸、和紙、瓦の焼き物、草木染めなどを体験できる「アクティ森」を1991年に完成させた。これは現在株式会社として管理運営されている。これにより森町は観光形態を「見る」から「体験」へと変わることができ観光客の数も30万人程増加した。

森町では行政を中心に町づくりに積極的であり、観光産業だけに目を奪われず町全体の将来を見つめている。「アクティ森」も森町の総合計画の中に位置づけられている。「アクティ森」はその機能だけではなく、県都市景観賞優秀賞を取るほど景観にも優れていて、いまや町のシンボルとなっており、その中には農作物販売コーナーがあったり、周辺には各種レジャー施設も立地に町の活性化に非常に貢献している理想の施設である。これからは、第2東名高速道路も開通することからさらに発展することが予想される。

（2）スターフォーレスト御園　（愛知県北設楽郡東栄町）

東栄町の基幹産業である林業をとりまく情勢は、極めて厳しくなっている。特に木材価格の低落と需要不振は林業関係者の活動意欲を低下させ、その影響は、地域の活力にも影を落としつつある。一方、森林に対する期待は単なる木材の生産の場としてだけではなく、国土の保全、水源の確保、自然のふれあいの場等、多種多様のものになってきている。東栄町は古くから「花祭りの里」として名高く、各地で開催される祭りの期間には、祭りを観るのと同時に豊かな自然環境を楽しむため多くの人々が、この山村に集まって来ている。東栄町の「花祭り」は、遠く鎌倉、室町時代に山伏や修行者によって天竜水系のみに伝えられた奇祭であり、昭和51年5月に国の重要無形民族文化財に指定され、民族学的にも有名な古典芸能である。東栄町では毎年11月から翌年の3月上旬にかけて町内の11カ所の地において開催されているが、実際には町民の極楽となっている。

一方昭和63年には、環境庁大気保全局による「スターウォッチング星空の町コンテスト」に入選し、全国で星空の美しい町村として発表され、星の観察に適した場所となり東栄町に新たな可能性が出てきた。

町の特色を最大限に活かすために、天体観測を行う教育文化施設と、森林浴等の保健、休養施設の機能を合せ持つ天文観察棟を完備したバンガロー村「スターフォーレスト御園」が1994年3月25日に完成した。事業費の財源内訳としては、国庫補助金から約5割、町費からは約4割、残りが県の補助である。ここには、年間5000人強の人々が訪れており、割合は学生50%、家族連れ50%である。彼らは、およそ2泊から5泊程宿泊していく。ここの従業員の人々は、森林、星が好きなことはもとより東栄町の活性化のことを非常によく考えている。最近東栄町に温泉が発見したことから、新たに星空と温泉を結びつけることを活性化のカギにしようとしている。町の観光資源も色々とあるがあまり整備されていない。町の人口は、1975年には6752人が、1990年には5441人と過疎化が進んでいる。

5.結語

森町と東栄町の事例は両者とも自然を生かした町おこし、施設づくりを行ってきている。「アクティ森」と「スターフォーレスト御園」は、どちらも町が計画し建設したものである。またテーマパークのように目立つものではないが、歴史的に由緒のある地域の特性を十分に生かし、安定した観光客を集めている。東伊豆町のほうが、東京圏から3時間程と交通面には優れているし、海、山、温泉などの自然の産物にも恵まれているにもかかわらず森町と観光人口はあまり変わらない。両者と一番の違いは東伊豆町は、自然にかかわる施設などの開発が大変遅れていることである。具体的には、海の利用方法として従来のものに加え、海の生物の生態系を知ることや実際に取ってみたりなどをする「体験学習教室」などを定期的に開催する施設や、また稲取高原の浅間山の展望台に天文台を造ることにより稲取高原の観光施設の再設備をはかることなどが考えられる。

これからの町おこしでは、新たな視点でテーマ性をもって地域資源を見直す必要があるだろう。

謝辞　本研究に関し静岡県賀茂郡東伊豆町商工会皆川太様、静岡県周知郡森町役場観光事業課の皆様、愛知県北設楽郡東栄町役場企画課の皆様、スターフォーレスト御園の皆様に多大のご協力を得ました。深く感謝を申しあげます。